

学校だより



かきた

児童数 465名(6月1日現在)

<学校教育目標>

「**自分のよさ(知性・感性)を発揮し、心豊かにたくましく生きる子ども**」を育成する
かしこく きよく たくましく



学校の再開、今後の課題

校長 金井 進

ようやく学校は再開となりました。この3ヶ月間、子どもたちにとって、「学校に来ない」ということは、まさに未曾有のことであり、毎日、我慢を強いられ、辛いと感じていたことでしょう。それでも、課題や自主学習に取り組み、おうち時間を工夫して過ごすなど、自身を律して生活できていたことは、大変偉かったと思います。本当によく自粛し続けてくれたと思います。これもひとえに、ご家庭のお力の賜と感謝申し上げます。また、子どもたちは、日々、この国難の状況下にあって、医療従事者の方々の懸命な努力やたくさんの方がお亡くなりになっているというニュースを見るにつけ、感謝の気持ちや命の尊さを知ったことでしょう。こうした経験は、必ずやこれからの子どもたちの成長にプラスとなって働いていくものと信じています。

保護者の皆様におかれましても、3月の突然の臨時休業では、子どもたちの持ち帰れなかった荷物や通知表の引き取り、また卒業式の実施についてご協力をいただきました。その後、休業が延長された際にも、「すぐメール」の登録にご協力いただいたり、課題の受け渡し等で、学校に分散来校していただいたりしました。外出への不安も強かったと思いますが、お子さんのためにご協力をいただき、ありがとうございました。また家庭訪問を実施させていただいた際には、職員にたくさんの励ましの言葉や温かい対応を賜り、本当にありがとうございました。

しかしながら、コロナウィルスの感染は、未だ終息したわけではありません。今後も様々なことに油断せず、新しい生活様式を模索し、慎重に実行していく必要があります。

これまで休業していた分の授業時数を補うためには、今後、夏休みや冬休み等を短縮して授業を進める必要があります。さらに、感染拡大防止の観点から、予定していた学校行事については、延期または中止に。授業についても、体育では？音楽では？家庭科では？密になる活動を避けるため、進め方や内容を入れ替えて行っていく必要があります。また一方、こうした課題を一日でも早く解消し、これまで通りの生活に戻してあげたいという思いがありつつも、まずは、子どもたちを徐々に学校に慣れさせていくということも重要です。例えば、分散登校で学級の人数を減らしたり、短縮授業から始めるという、例えるならば「リハビリ」的に進めるということです。

学校が再開されれば、普通通りの生活ができると期待していた子どもたちには、まだ当面、我慢を強いることにもなるので、かわいそうな思いが強いのですが、先にも申しあげましたとおり、逆境の中でも辛抱し、これからの生活が、必ず将来に生きると前向きに信じて取り組んで参ります。保護者の皆様におかれましても、ご理解・ご協力をお願いします。